

第81回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動について (平成11年2月～5月)

岩手山では引き続き地震活動、地殻変動が継続している。別紙のとおり火山活動について統一見解を発表した。樽前山では5月初めに一時地震回数が増加した。桜島では3月中旬に地震が群発後、噴煙活動がやや活発となった。

1. 北海道地方

雌阿寒岳：ボンマチネシリ96-1火口の噴煙量は平成10年11月9日の噴煙以降多い状態が続いている。5月12日以降高感度カメラにより96-1火口付近が明るく見える現象を観測した。

十勝岳：平成10年10月以降高感度カメラにより62-2火口付近が明るく見える現象を観測しており、今期間も3月以降時々観測した。

樽前山：平成8年以降地震活動は活発な状態が続いており、地震回数は増減を繰り返している。5月1日から3日にかけて地震回数が急増し、2日211回、3日173回観測した。1月に観測したドーム南西火口からの噴煙はその後も引き続き観測している。5月17日、18日に行った現地観測で、A火口では噴気温度の上昇を観測し、火口原北東噴気孔では亜硫酸ガスを検出した。その後地震活動は落ち着いているが、今後の火山活動に注意が必要である。

北海道駒ヶ岳：3月1日に振幅の小さな火山性微動を観測した（平成10年10月25日の噴火以来）が、表面現象に異常は認められなかった。

2. 東北地方

岩手山：統一見解を発表（別紙）。

吾妻山：3月に地震回数がやや多くなった。

安達太良山：5月13日、14日の現地観測で、沼ノ平において新たな泥噴出跡と平成8年6月以降確認されている泥噴出が継続しているのを確認した。また、沼ノ平南西部では依然として噴気活動が活発であることを確認した。

磐梯山：2月下旬から3月にかけて地震回数がやや多くなった。

3. 関東・中部地方

那須岳：3月26日に地震が多発した。

伊豆大島：地震活動や表面現象に特に変化はない。地殻変動観測によると、島の膨張傾向が引き続き観測されている。

神津島：3月14日に神津島の北方沖でM4.7、3月28日に南西沖でM5.0の地震が発生して、地震活動が活発化した。地殻変動観測によると、島の膨張傾向が引き続き観測されている。

三宅島：4月25日に低周波地震（深さ24km）を観測した。表面現象に特に変化はない。

4. 九州地方

九重山：地震回数は1日あたり10回以下で推移した。噴煙高度は概ね50～300mで推移したが、5月2日には800mに達した。

阿蘇山：3月は地震回数が増加し、地下活動がやや不安定であったが、その他の月は穏やかに推移した。中岳第一火口の火口底は全面湯だまりが続き、南側火口壁下では噴湯現象を観測した。

雲仙岳：5月14日に火山性微動を観測した（平成10年11月1日以来）。

桜島：3月10日に地震が群発し、11日から16日において噴煙活動が活発になった。

薩摩硫黄島：地震回数は1日あたり100回程度の状態が続いた。2月14日に島内で少量の降灰が確認された。

諏訪之瀬島：2～3月は噴煙高度が300～700mの高い状態が続いた。